

## 週日の説教

金 大烈 神父 2009年3月10日(火)

### 《霊的な夢について》

今日の福音(マタイ 23・1 - 12)の内容は、皆様より、司祭や司教のように、人の前に立ち人々を導く役割を持つものが、いつも鏡として考えなければならない御言葉だと思えます。ですから、今日の福音は自ら反省する言葉として受け入れます。

今日は、別の話をします。

私たちは、寝ている時によく夢を見ますね。今日は夢について話したいと思えます。夢には、二つの種類があります。科学的な考え方では、100年ほど前にフロイドという心理学者が「無意識の作ったものが脳に反映されて夢になる。」と言いました。

たとえば、中国や韓国では、妊娠している女性は子どもを産む前に必ず胎夢(たいむ)という夢を見ると言われています。胎夢も殆ど無意識が作ったものです。代々、妊婦は子どもを産む前に必ず夢を見る、と言われてきたことが、無意識的に夢となって現れるのです。

しかし、いくら考えても無意識とは全然関係のない夢を見ることもあります。それを霊的な夢と言います。占いをする人々によると心霊的な夢なのだそうです。カトリック教会では、この霊的な夢を認めています。

1997年ごろ、私は、韓国の西の一番遠く離れている島で主任司祭をしていました。その当時、住民1600人くらいと軍人1200人が滞在する島でした。住民の90%、軍人の60%は、カトリック信者でした。その島で司牧している時の話です。

司祭館に藤の木があり、藤の木を日よけとしてその下にベンチが置いてありました。私はそのベンチに座っていることがよくありました。その日も、ベンチに座っていると80歳を過ぎたおばあさんがやって来ました。腰の曲がっているおばあさんが苦勞をしながら、ひどく緊張した顔でやって来たので、私は「何かありましたか?」と聞きました。すると彼女は、「神父様、相談したいことがあります」と言って、次のような話をしてくれました。

「50年前、友だちが亡くなりました。その友達は、生まれつき、知的障害があり、他の友達からいつもいじめられていました。彼女が16歳になる前に朝鮮戦争が起こりました。この島は、西の海の一番離れている島なので、昔は北朝鮮に属していました。今は南側の韓国の島ですが、朝鮮戦争が起こったときは、北朝鮮に属していました。北朝鮮の軍人達がやって来た時、彼女は何も分からないまま、北朝鮮の軍人達の仕事をよく行いました。その後、南朝鮮に属すると南側の軍人のさせる仕事をよく行いました。それが何度も繰り返されました。そして最終的に北朝鮮が敗退すると、彼女は南側の軍人に射殺されました。

彼女が殺されたとき、私も何人かの友達も、彼女のことを可哀想だとか気の毒だとは一度も思いませんでした。なぜならば、北朝鮮の軍人に言われるまま悪いこともしていたからです。

ところが、昨夜、その友だちが夢の中に50年前の姿のまま現れました。

怖くて、気になって、どうすればよいか分からなくてやって来ました。」

その時、私は、「たぶん、彼女が信じている友だちは、あなただけだったのでしょう。今、彼女は、あなたに助けを求めていると思えます。彼女のために一生懸命祈ってあげてください。」と答えました。

亡くなってから50年経ち、もう彼女の存在さえすっかり忘れていたそうです。ある日突然その夢を見た、という話を聞いて私の頭に浮かんだのは、彼女がカトリック信者であるそのおばあさんに祈りを求めている、ということでした。「祈ってください。一生懸命ミサに与ってください。思い出せる限り、いつも彼女のために祈ってください。そうすれば彼女は救われます。彼女は何の罪もないのに、

殺され、多分、今、どこかをさまよっているのでしょう。その靈魂のために一生懸命に祈ってください。」とおばあさんに話しました。

実際、信者の家庭を訪問するときにも私は同じようなことを強く感じるがあります。

たとえば渋川にいるとき、長い間信仰の生活をしていなかった人が軽井沢に旅館を開店することになり、住んでいる家を祝福してほしい、という依頼がありました。あまり気は乗らなかったのですが、司牧的な心で森の中にある家を訪ねました。中に入ってみると、ものすごく重い気に襲われ、水と塩を準備してから、二階に上がりました。二階の各部屋を全部開けて見ると、気になる部屋があり、誰が使っていたか聞いてみました。すると、その家のご主人が首をつった部屋だということでした。「その後一度も教会に来たことがないでしょう。」と私は厳しく責めました。

また、別の家を訪問してみますと、部屋が3つあり、一つの部屋には仏像が、もう一つの部屋には神棚が、そして自分の部屋には聖母像とイエス様のご像がありました。理由を聞いてみると、その信者さんは「一つは祖母が信じてきた信仰で、もう一つは親が信じてきた信仰なのです。だから、朝起きると、仏壇でも神棚でも、イエス様の前でも頭を下げています。」という答えでした。

はっきり申し上げます。これはカトリックでは許されません。イエス様以外のものに頭を下げることは許されないのです。知らずにそういう習慣になっている方が結構いらっしゃいます。しかし、本当は正しいことではありません。本当に皆様が「イエス様は神様の子だ」という確信を持つならば、親が信じたこと、おばあさんが信じたことを無視しても大丈夫です。なぜならば、自分が愛する神様(イエス様)が、自分の親、自分のおばあさん、全てを守ってくださいます。

親の信仰を尊重しなければならない、というのは言いわけです。正しいことではありません。皆様が信じているものは本物だと確信がもてれば、それをほかのものと一緒にするのはありえないことです。

皆様、私たちが持っているこの信仰を、本当に宝物として考えてください。他のものと比較するものではありません。だからこそ、殉教者が出たのです。

ありがとうございました。